

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773302035		
法人名	㈱大阪ヘルスバンク		
事業所名	グループホームAMG		
所在地	大阪市西成区千本北一丁目20番11号		
自己評価作成日	平成23年4月15日	評価結果市町村受理日	平成23年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成23年5月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者個々の意思・人格を尊重し、一人ひとりの生活リズムに合わせた介護を目指し、心身の特性を踏まえた上で、個性と尊厳をもって自立した日常生活を送っていただけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄四つ橋線岸里駅から徒歩5分の便利のよい場所にある。1階がクリニック、鍼灸院で2階がグループホームとなっている。元の建物をグループホームとして改装しているため、トイレ、浴室等の水回りに関係する部分にスロープ等が施工されている。全体的にはスペースに余裕がある。入所者がひとり暮らしの人が多くもあって、職員が家族の分まで利用者に思いを寄せた支援を行っている。利用者は職員を頼りにして、毎日の生活を送っている様子が窺える。毎日決まった日課も無く、ゲーム等をする事も無く、各自が自分のペースで過している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「利用者一人ひとりに合わせた介護で安心とゆとりの生活を楽しんで頂けること」を掲げて共有している。	運営方針は明記して、事業所内に掲示しているが、やや形式的なっているように感じる。	地域密着の認知症対応事業所として果たすべき社会的役割を含めて、利用者を支えていく介護の心を、職員が話し合っって理念として欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営者が地域の各種自治団体等の活動に参加はしているが、地元との交流は散歩やごあいさつ程度となっている。	建物としては自治会に加入した形になっているが、グループホームとして自治会との接触、交流はこれからの課題である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において認知症の理解や、支援のあり方などを説明するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は残念ながら、開催することができなかった。	近隣との根回しや準備が充分出来ていないために、21年度は開催できていない。事業所としても近隣にお願いして開催を望んでいる。	基準省令第85条に定められているように、地域の人から協力者として、あるいは理解と助言を頂く為にも、継続的な運営推進会議の開催を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の福祉担当の方が来訪されるので、職員とともに懇談を行っている。	公的扶助対象の利用者が入所している関係もあり、介護保険や安心サポート等の相談、報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない事由が生じた場合を除き、指定基準および関係法令に従い、すべての職員が身体拘束をしないようにしている。	現在のところ、身体拘束がやむを得ず必要な入所者はいない。利用者の様子を見守りやすいレイアウトになっているために、異常があればすぐに職員が気付いて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等に従い、すべての職員は虐待をした場合、あるいは虐待と見受けられる場合は市町村に報告するよう指示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市からの情報やパンフレットなどを用い、活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人・ご家族と面談時、十分な説明を行ない、不安や疑問点がないか確認し、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談を常時受け付けている。	家族との連絡が取れない為に、利用者本人から直接要求を聞き対応してる状態である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを随時行い、スタッフ全員の意見を聞き、話し合っている。	職員は経験も豊富で専門職としての誇りを持って利用者に対応しているが、シフトの引継ぎなどの文書化が充分とはいえない。	個々の職員はスキルも高く経験も抱負であるが、職員の定期的ミーティングの開催や情報共有のためのツール(送りノート)等、チームケアを徹底させる為の検討が必要と感じられる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の勤務状況等を勘案し、給与水準の向上を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	病院研修や勉強会などをフロアー内で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、同区内のグループホーム管理者と情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	来所面談、訪問面談時など状況に応じた面談の機会をつくり、ご本人の困っていることや不安なことを傾聴し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の置かれている状況を十分に把握し、不安な気持ちを受け止め、安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を十分に把握し、ご本人・ご家族の要望に沿ったサービス利用が受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・掃除などを一緒に行いながら、入居者一人ひとりの人格を尊重し、支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者のお誕生日やクリスマス会などのイベントに参加していただいたり、面会時に一緒に昔の話などを聞いたりするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人などが気軽に来訪できるような雰囲気づくりに努めている。	利用者個々の事情により家族や知人との関係が疎遠になっているが、職員は近くの商店へ行くなど、利用者の社会的つながりを維持するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで集える雰囲気づくりをしたり、一緒に作業することでコミュニケーションの場づくりができるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などにより退去になった場合なども、相談やアドバイスができる関係が築けるよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送りで必ず一人ひとりの思いや希望、意向について把握している。	事業所での過ごし方については、利用者と話し合っ本人の希望する方向で支援している。男性が多いため喫煙する人もおり、職員は静かに見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や福祉担当からの面談時などの情報の収集、ご本人の話から把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルサインチェックや、体重測定を毎月行い、心身状況の把握、異常の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行い、必要に応じ話し合いを持ち、ご本人・ご家族・スタッフの意見を反映した現状に即した介護計画を作成している。	管理者兼計画担当者が中心となって、職員の意見を参考にして、ほぼ毎月介護計画書の見直しを行っている。家族と相談が出来ないので本人と話し合いながら目標を設定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を用い、スタッフ全員が共有した情報を持ち、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や往診など医療機関との連携や相談、老人会などの催しに参加できるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアなどを受けて、体操レクや音楽鑑賞などを取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、またはご本人が希望する医院での定期的な受診が受けられるよう支援している。	週に1回、全員がクリニックの訪問受診を受けている。一階にある鍼灸医院から訪問リハビリを希望する利用者は受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の日常の状態を常に把握し、気づいた点を定期受診の際、医師・看護師に伝え、適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に病院関係者と情報交換を行っており、入居者の入・退院に関する迅速な行動ができるよう関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や主治医とともに相談した上で、ご本人にとって最良の方針が立てられるよう取り組んでいる。	家族との連携が出来にくいので、重度化した場合の医療処置については、医師の意見を聞いて、本人や行政と相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は常にマニュアルに目を通し、入居者の急変や事故発生時に迅速に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当ビルの消防訓練に参加し、全ての職員は災害発生時、迅速に対応できるようにしている。また、地域との協力体制の強化にも努めている。	ビル全体の消防訓練を行っている。スプリンクラー工事申請をしている。非常階段が設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する内容は必ず、スタッフルームにて話すようにしている。また、言葉かけや対応については一人ひとりの人格を尊重している。	本人の過去や経歴などプライバシーに関わる事には、特に注意した配慮が行われている。言葉かけも親しみ過ぎないように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いが表現しやすい雰囲気づくり、一人ひとりに合わせた説明方法を用い、理解した上で自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に一人ひとりのペースに合わせ、どのように過ごしたいのかを聞きながら、ご希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時に理容店に行ったり、外出時の身だしなみが整えられるよう声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取り入れたメニューを提供できるなどの工夫を行っており、片付けや準備などできることはやってもらえるようにしている。	食材は毎日業者からから配達されて来て、職員が調理をしている。下膳等は利用者が手伝っている。食事介助が必要な利用者はいない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全ての職員は入居者の健康管理を常に注意しており、安定した栄養摂取量やバランスが保てるよう、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は毎食後、入居者の口腔状態を確認しており、入睡前には一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排せつ周期の把握に努め、自立した排せつができるよう支援している。	個人個人の排泄パターンを把握して、自立した排泄習慣が継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、飲食物の工夫や十分な水分の補給、適度な運動を促すなど声かけし、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	男女別で曜日は決めているが、一人ひとりの希望やその日の体調により、ご本人の希望に合わせた入浴の支援を行っている。	日程を決めているが、入浴を希望する場合はその限りではない。拒否がある場合は日をずらして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時はゆっくり話を傾聴するなど、その時々状況に応じて、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法・用量は常に把握しており、服薬の支援や症状の変化は常に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴に合わせた声かけや、役割を持っていただくことなどで、張り合いや喜びのある日々を過ごしていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人ひとりの希望に合わせ、外出している。また、地域の催し等には積極的に参加してもらえるよう声かけしている。	外での行事を含めて、全般的に外出支援は充分ではない。ボランティアの受入れも少ないのが現状である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理しておられる入居者には買物時、出費が増えないよう声かけし、お金の大切さを理解してもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のやり取りはいつでもできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清潔に保ち、入居者に不快感を与えないようにしている。また、季節感や生活感を取り入れた居住空間の工夫をしている。	居間兼食堂のスペースが充分確保されている。水周り設備(浴室、トイレ)の改装部分はスロープが設けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビやビデオを見たり、喫煙場所・テーブル席などで自由に過ごしてもらえるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物が置けるスペースを確保するなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自宅から小さな仏壇を持ち込んだり、植木鉢を置いたりして、利用者が落ち着いて自室で過ごせるように、ささやかではあるが空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室の廊下の手すりを設置し、安全で自立した日常生活が送れるよう工夫している。		